

平成31年度

小論文

(60分)

栄養学部 栄養科学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
2. 問題用紙は、表紙を含めて3ページである。
3. 解答用紙は、2枚である。2枚とも解答すること。
4. 受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
5. 問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題 (その1)

栄養科学部 栄養科学科

図1-1は、わが国の1世帯当たり年間の肉類の購入数量、図1-2は、年間の肉類の平均価格の推移を示したものです。図1-3は、わが国の1人あたりの肉類摂取量の平均値(20歳以上の年齢階級別)を示したものです。それぞれの図をよく読んで、以下の問いに答えなさい。

図1-1 1世帯当たり年間の肉類の購入数量(2人以上の世帯)

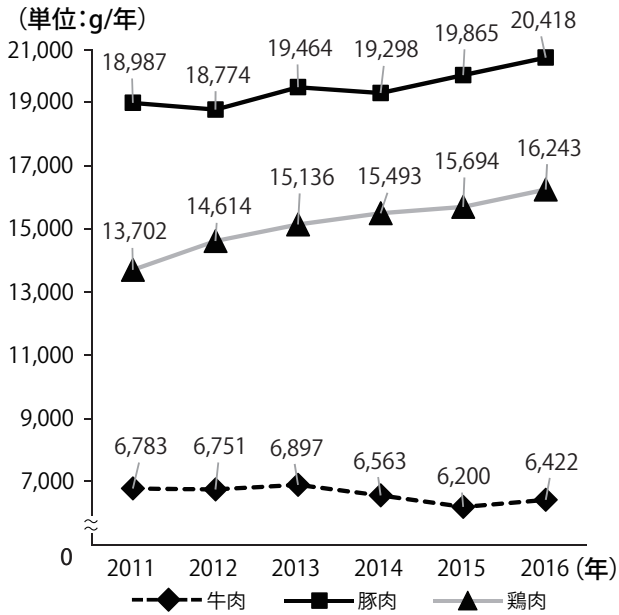
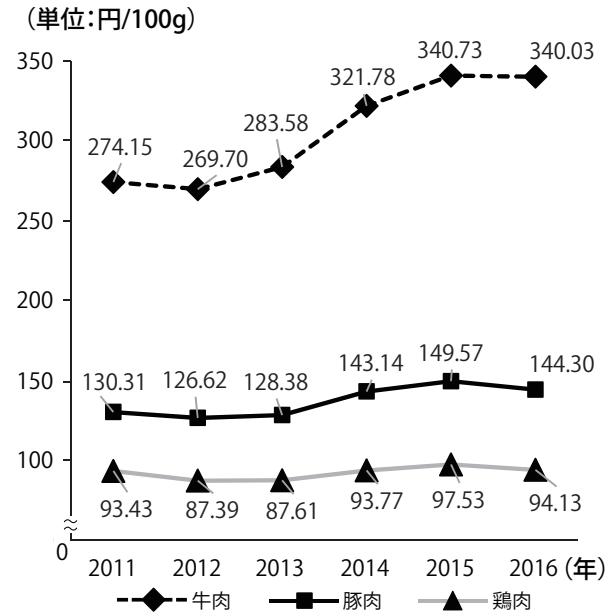
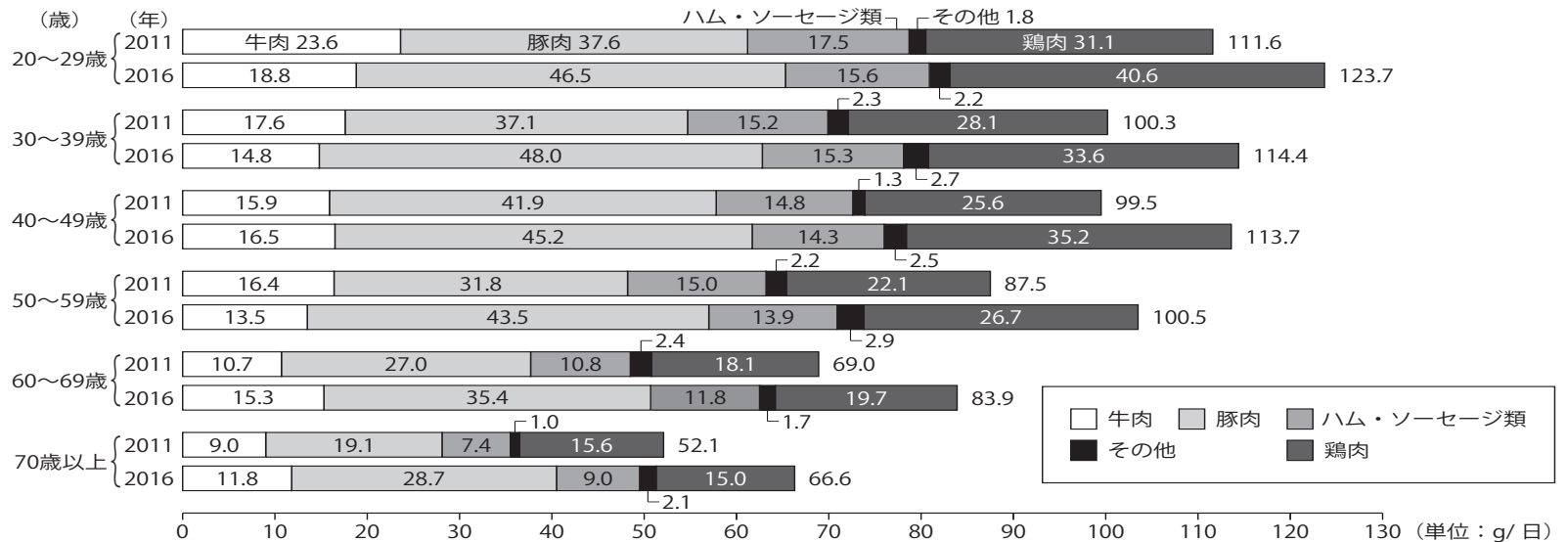


図1-2 年間の肉類の平均価格(2人以上の世帯)



(資料：総務省統計局「平成23～28年、家計調査」より一部改変して作成)

図1-3 1人あたりの肉類摂取量の平均値(20歳以上の年齢階級別)



(資料：厚生労働省「平成23年、平成28年国民健康・栄養の現状」より一部改変して作成)

- 問1 図1-1において、牛肉の購入数量の最高と最低の差(g/年)を求めなさい。
- 問2 図1-1と図1-2より、牛肉の購入数量および平均価格の推移の特徴を120字以内で記述しなさい。
- 問3 図1-3において、70歳以上の2016年の肉類摂取量の平均値に占める豚肉の割合(%)を求めなさい(答えは、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までとすること)。
- 問4 図1-3にあてはまる内容を次の中から2つ選び、番号で答えなさい。

- ① 豚肉の摂取量の平均値は、すべての年齢階級において、2011年よりも2016年が少ない。
- ② 肉類の摂取量の平均値は、すべての年齢階級において、2011年よりも2016年が多い。
- ③ ハム・ソーセージ類の摂取量の平均値は、年齢階級が上がるにつれて増加している。
- ④ 2011年と比較して2016年の牛肉の摂取量の平均値は、50～59歳の年齢階級で最も減少した。
- ⑤ 2011年と比較して2016年の鶏肉の摂取量の平均値は、70歳以上の年齢階級でのみ減少した。

問 題 (その2)

栄養科学部 栄養科学科

表1-1は、日本人の1日エネルギー摂取量の平均値の年次推移（年齢階級別）、表1-2は、日本人の1日食塩摂取量の平均値の年次推移（年齢階級別）を示したものです。それぞれの表をよく読んで、以下の問いに答えなさい。

表1-1 日本人の1日エネルギー摂取量の平均値の年次推移（年齢階級別）

	(単位：kcal/日)				
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
総数	2,042	1,948	1,904	1,849	1,889
1～6歳	1,446	1,378	1,338	1,261	1,283
7～14歳	2,053	1,952	2,009	1,935	1,963
15～19歳	2,287	2,134	2,188	2,192	2,243
20～29歳	2,079	1,977	1,894	1,854	1,953
30～39歳	2,151	2,017	1,903	1,871	1,901
40～49歳	2,140	2,035	1,961	1,891	1,908
50～59歳	2,173	2,059	1,987	1,937	1,942
60～69歳	2,024	1,978	1,956	1,923	1,959
70歳以上	1,765	1,760	1,787	1,720	1,796

表1-2 日本人の1日食塩摂取量の平均値の年次推移（年齢階級別）

	(単位：g/日)				
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
総数	13.2	12.3	11.0	10.2	9.7
1～6歳	7.5	7.1	6.1	5.7	5.4
7～14歳	11.6	10.8	9.6	9.0	8.7
15～19歳	13.1	11.8	10.7	10.2	10.0
20～29歳	12.8	11.6	10.4	9.8	9.7
30～39歳	13.6	12.0	10.7	10.2	9.6
40～49歳	14.2	12.9	11.1	10.0	9.5
50～59歳	15.1	13.9	12.1	11.1	10.2
60～69歳	14.5	13.6	12.2	11.3	10.5
70歳以上	12.9	12.9	11.5	10.5	10.0

(資料：厚生省「平成7年国民栄養の現状」、厚生労働省「平成12年国民栄養の現状」、「平成17年、22年、27年国民健康・栄養の現状」より一部改変して転載)

問1 表1-1において、1995年と2015年を比較し、1日エネルギー摂取量の減少量が最も大きい年齢階級を、次の5つの中から選び、番号で答えなさい。

- ① 1～6歳 ② 15～19歳 ③ 30～39歳 ④ 50～59歳 ⑤ 70歳以上

問2 表1-2において、総数における1995年に対する2015年の1日食塩摂取量の減少率(%)を求めなさい(答えは、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までとすること)。

問3 表1-1と表1-2より、総数における2015年の1日エネルギー摂取量1,000 kcalあたりの食塩摂取量を求めなさい(答えは、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までとすること)。

問4 表1-2において、1日食塩摂取量の年次推移は減少傾向にありますが、日本人の食事摂取基準(2015年版)(厚生労働省)の目標量(成人男性8g未満、成人女性7g未満)や世界保健機関が推奨する摂取量(成人男女5g未満)までには減らすことができていません。これらの目標を達成するための方策を考察し、140字以内で記述しなさい。